

2030~2035

IN-6

安定した大量生産技術の普及により画一化された農産品に対して、小規模な生産者は価値観やストーリーの表現による差別化を行うようになる

概要

気候変動の影響をきっかけとした農産品の工業化（AIによる栽培技術指導、生産工程の自動化）により、農産品の生産方法が画一化されることで、効率的に生産が行えるようになるが、商品の質や味などによる「ご当地らしさ」を打ち出すことが難しくなる。

また、消費者の関心は質や金額から、生産者の価値観や企業理念、栽培・製造過程といったストーリーへと変化していき、応援消費を行うことが一般的となる。

そこで、小規模な生産者は、環境配慮や地域課題解決を意識した商品であることや、生産者自身がどのような思いで事業を始めたのかなどの情報を、動画配信やSNS等最新の情報伝達手段を駆使してPRする販売方法を取り、「モノを生産する」だけでなく、「モノを表現する」存在としても注目されるようになる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

価格やスペックで商品を選ぶ



これからは

生産者のバックグラウンド・価値観・企業理念で商品を選ぶ